

陳 述 書

令和 5 年 9 月 15 日

住所 沖縄県 宮古島市 平良字松原 534-1

氏名 宮里賢治



1 私は、沖縄県宮古島市で獣医をしており、2010年頃から砂川智秀さん（以下「砂川さん」と言います。）の所有する動物の担当医をしていた者です。

砂川さんが運営する La-Vida や宮古島アニマルレスキューチームの活動を知って、砂川さんに私が所有している犬の繁殖場として使っていた不動産（以下「本件不動産」と言います。）を動物の保護活動に役立ててほしいと思い、砂川さんと本件不動産の売買交渉をしていました。ところが、後に中原絵梨奈さん（以下「中原さん」と言います。）と呉屋順子さん（以下「呉屋さん」と言います。）に騙されて本件不動産を相場の約3割の価格である1000万円で売り渡してしまいましたが、その経緯についてご説明いたします。

2 私は、以前、本件不動産を繁殖場として使っていましたが、2017年頃までには繁殖事業をやめており、本件不動産を使わなくなっておりました。そんな時に砂川さんが保健所の動物を引き取って里親を探す活動を行っているということを2017年末頃に知りました。私も里親を探すなどの保護活動を行っていたので、砂川さんの事業に賛同し、2018年1月頃に砂川さんが来院した時に、そのような活動を行っているならば使用していない施設

( 本件不動産)があるから使ってもらっても良い旨を伝えました。そうしたところ、砂川さんが本件不動産を内見してみたいと仰ったので、鍵を預けて内見を行ってもらいました。内見を終えた砂川さんは、大変ありがたい話ですと言って、私を宮古島アニマルレスキューチームの専属医にするので本件不動産を買い取りたいと申し出ました。当時は宮古島のバブルで不動産価格が高騰していたのですが、宮古島アニマルレスキューチームの専属医になれば私としても恒常的に仕事が増えると考え、砂川さんの保護活動の負担にならないように本件不動産を相場価格の約3割程度の価格である1000万円で売却することにしました。

- 3 その後、砂川さんは本件不動産を何度も内見していましたが、資金調達の都合だとは思いますが、正式な売買契約と決済はしていませんでした。

2018年10月頃に宮古島アニマルレスキューチームの活動に参加していた中原さんと呉屋さんから、①砂川さんがノイローゼになってLa-Vidaの施設から犬を追い出そうとしている・②いついつまでに出て行けと言われていたので動物たちの行き場所がなくて困っているという話を聞かされました。

( 私は、中原さんらの話を信じ切ってしまう、行き場所が無くなった動物たちが殺処分されるのではないかと考え、それならば本件不動産を使っても良いと提案をしました。呉さんと中原さんの話では、ノイローゼになった砂川さんに代わり宮古島アニマルレスキューチームは中原さんが引き継ぐため、本件不動産は中原さんが買い取りたいということで、結局は中原さんの父親が1000万円で買い取ることになりました。このとき、価格を抑える条件として、私を宮古島アニマルレスキューチームの専属医にするという約束をしました。そうでなければ低廉な価格では売却しません。

4 ところが、本件不動産の決済が終わった後に、中原さんは何故か島外から新しい獣医を呼んで宮古島アニマルレスキューチームの専属医としたため、私には宮古島アニマルレスキューチームからの診療や避妊去勢手術などの依頼が全く来なくなりました。さらに中原さんが本件不動産の一部を動物の保護活動に使わずに切り売り転売して利益を上げたことも知りました。

上記のとおり、私は、私が宮古島アニマルレスキューチームの専属医になり仕事が増えることを条件として、相場の3割程の価格である1000万円で本件不動産を譲ったのですが、中原さんが私以外の獣医を専属医にしたことと、本件不動産を転売したことを知って初めて騙されたのだと気付きました。このような仕打ちを受けることを知っていれば中原さんに売ることにはしませんでした。売り渡してしまった後なのでどうすることも出来ず、騙される方が悪いのかと思い中原さんと呉屋さんとは疎遠になりました。

5 その後、砂川さんから連絡があり、砂川さんは上記①②のように追い出そうとしたりはしていない、という話を聞き、中原さんと呉さんの話は、最初の説明からして嘘だったのだと知り、非常にショックを受けました。

以上